

2023 年 5 月 24 日(水)

ゴミからアートを生み出す術

先週の 20 日(土曜日)4 時間目、中学 3 年生向けに「キャリアについて学ぶ」というテーマで校長特別授業を行いました。

世間では、若い世代に対して「夢をもとう!」「夢を実現しよう!」と声高に言われますが、実際には環境や経験などにより夢は絶えず変化するものです。変化の激しい時代、夢を一つに決めることは一層困難な時代とも言えるでしょう。また、従来 of 進路指導の場では、まず将来の職業を決め、それを実現するためにはどんな学部学科に進学すべきかを考え、大学を選び、必要な受験科目を決めるようにと言われて来ました。しかし、3 万種以上もある職業、全国に約 780 大学 2200 学部の中からどのようにして選ぶかは、それぞれ生徒の判断に任されています。

かつては「自分探し」という言葉が良く使われましたが、テレビ番組『新しいカギ』のようにどこかに隠されているものではありません。キャリアとは、ゆく川の流れるように絶えず変化し続けるものなのです。

今回、授業で紹介した長坂真護さんという人は、波瀾万丈の 20 歳代を経て、雑誌「Forbes」に掲載された 1 枚の写真に強い衝撃を受け、西アフリカのガーナに渡ったそうです。長坂さんは、首都アクラ近郊にあるアグボグブロシーというスマートフォンや PC などの「巨大な電子機器のゴミ捨て場」を目の当たりにします。そこでは、ゴミを燃やして金属を取り出すという危険で有毒ガスの充満する現場で 1 日 500 円以下で働く若者たちと出会うことになり、それまでの自分自身の生き方と将来を見詰め直し、ゴミや廃材からアートをつくり出す芸術家となります。長坂さんは「Reasonable から Sustainable へ」と、お金でははかれない新たな価値を見出し、現地の人々の生活を立て直す活動にのめり込んで行きます。

こうして若さゆえの未熟さから事業に失敗して新宿の路上で絵描きをしながらその日暮らしの生活をしていた一人の日本人青年の作品が、今では何千万円で取引されるようになり、その売上を元手にガーナの若者の生活改善に取り組んで行く道を選ぶことになったの

です。世界からスラムをなくす壮大な活動は、まだ始まったばかりですが、遠く離れた場所で起きている事実を知って向き合うことの大切さ、職業とは生き方の問題あるということを、私たちに教えてくれます。

「先の見えない時代」「不透明な時代」と、若い者に不安感を与えるだけでなく、どのような未来が待っているのか、私たちも共に考えなくてはなりません。学生時代に得た知識や技能は10年ぐらいで古くさいものとなる変化の激しい時代だからこそ、そのためには何が必要なのです。人生100年という時代にあって、世界的にも珍しいと言われた日本的な終身雇用・年功序列型の社会も終わりを遂げ、70歳定年に移行しつつある現在、キャリア教育や職業を決める上で大切なこととはどのように生きるかということに他ならないのです。高い偏差値の学校進むこと、ブランド名のある有名大学へ進学することではなく、いかに学び、何をもとにどのように生きるか、たとえ進路が変わったとしても、いかなる方向転換にも対応できる力を身につけることが求められています。いわば、それが中学・高校時代に養うべき「学びに向かう姿勢」であり、「学びの哲学」なのです。

授業後には、生徒たちに「90字の要点まとめ」と感想を書いてもらい終わりにしました。

偉大な人は目標をもち、そうでない人は願望をもつ ルイ=パスツール

校長 石飛 一吉